

「夢は温泉旅行」 若松会

民間借り上げ仮設住宅で作られた自治会

仙台市では国の指針を受け被災した人達に対し避難所から出て安定して生活を営まれるための間に、「応急仮設住宅」と「民間借り上げ住宅」を提供しました。

「応急仮設住宅」は市の公園や空き地を利用しプレハブ形式で建てられており合計 20 カ所、約 2,000 世帯分が建設されました。それまで海岸地域で 2 世代 3 世代で一緒に広い戸建てに住んでいた人達からは「せまい、窮屈、使いづらい」など、不満の声も聞かれることがありましたが、それぞれの仮設住宅には集会所が設けられ、市の臨時職員が配置されています。自治会も立ち上がりコミュニティ形成を担っています。その場所は公になっており、地域の差があるもののボランティア支援が入り、物資やイベント、情報も豊富に提供されてきました。その様子は多くのメディアに取り上げられ広く知ることができます。

一方、「民間借り上げ住宅（みなし仮設）」は 2011 年 4 月 30 日に厚労省の通知を県が受け、賃貸住宅を応急仮設住宅として一定の家賃補助を得て居住しています。仮設住宅の建築の見通しも定まらない時期に早く避難所から出るため、多くの方が実際に物件も見ず間取り図だけで契約をしたといいます。慣れない場所で新たなコミュニティ作りも難しく、自立への焦りと先の見えない暮らしへの不安を抱いての始まりでした。

その数は約 8,000 世帯にのぼり市内の各地に点在しており、支援する側としても糸口が見いだせない状態でいました。

若松会はそんな「みなし仮設」在住の方々の集まりです。'11 年の 9 月に設立され主に情報収集や茶話会、学習支援やお互いを支える活動をしています。

そこでお世話係をしている副会長の早坂さんにお話を伺いました。津波で家が流され大切にしていたものをすべて失いましたが、幸い家族は全員無事でした。避難所から出て引っ越した当時は何もなく、支援物資を得るために区役所に行き掛け合いましたが、援助はなに一つ受けることが出来ませんでした。全国から寄せられた支援物資は避難所や仮設住宅へ送られてきま



したので、実際にそこに登録している人しか受け お話を聞いた早坂さんと（左）浜口さん

取れないシステムでした。後からそれを知った早坂さんは、まだ避難所にいる知人を訪ね歩き山と積まれている支援物資を見て「少し分けてくれないか」と頼みましたが、みんな断られたそうです。テレビで「仮設住宅へ支援物資が来ました、炊き出しが行われました」というニュースを見ると「羨ましくて羨ましくてしょうがなかった」と言います。「絆なんて感じない、きれい事よ」と当時を振り返ります。同じ境遇にある知人達とは「自分たちが支援を受けられないのはおかしい不公平よ」と話し合っていました。もしかしてこのまま忘れ去られ、これから十分な支えもなく生活していかなければいけないのかと不安を感じておりました。そして「何かしなければ」との思いがあったそうです。

夏頃にやっと東京にある子供育成支援協会とつながり、支援物資を得ることができました。はじめは3家族で分け合っていました自分たちだけではなく他にも同じような人がいると、つてをたどって声がけをし仲間を増やしていったそうです。「支援を受けやすくするために団体を作ってはどうか」と助言され『若松会』と名付けて発足させました。最初は卸町にある仮設住宅の集会所でイベントや物資の仕分けをしていましたが使えなくなり、早坂さんのアパートでするようにしました。しかし、たくさんの物資の搬入やしょっちゅう人の出入りがあるなどで、自立した集会所を持つのが望ましいということになり今のところに居を構えまることになりました。現在38世帯120名の会員数、一世帯月500円の会費で運営をしています。

それからはいろいろなボランティア団体と繋がりを持つことができ、また震災をテーマにした映画にも出演することになりました（出演料はロケ弁のみ）。

孤立や引きこもりを防ぐため、週一回の茶話会や平日は手作りグループによる「小枝ちゃん」（写真）製作、週1回子供達に学習支援を行っています。毎月イベントも催されて、その様子はホームページ（<http://wkmt.net>）で見ることができます。東北ヘルプでも南吉成教会の会員で支援活動をしている鈴木真理さんを通じて新年会にお弁当支援、写真撮影、ビデオ撮影のサポートをいたしました。



沖野市民会館で行われた新年会



皆さんが楽しみにしている茶話会

しかし、その運営は楽なものではありません。家賃は3月まで支援を受けることができますが、4月以降について仙台市に応急仮設住宅の集会所の扱いにしてもらいたいと補助金を申請し担当者にも視察に来てもらいましたが、結局前例がないとのことで受けられませんでした。その後、ある会社から支援を受けられる

見通しとなりましたが、光熱費や通信費などかかる経費を会費でまかなうのは難しい状況にあります。また、早坂さんはイベントや集いに出来るだけ多く参加してもらうため時には5万円以上になる携帯通話費や移動手段のない会員さんのために車を出すなど自費でまか

なっています。「みんなが楽しみにしているから」と

ご自身の生活を犠牲にして働き疲れた様子を見せていました。

最後に「今何が一番ほしいですか」と尋ねると「日帰りでいいからみんなで温泉に行きたい、それが私の夢なの」と自ら絆を作りそれを大切にしている姿が見えました。

今回お話を聞いて本当に不公平感があり目立つところと、目立たないところの差があるのを感じまし

た。私たちにはすべてを満足させられることは出来ないと思

しかし、聖書から学んだサマリヤ人のように、傷ついている人を助けたいと思っています。



小枝ちゃん (2本 ¥500) います。



小枝ちゃん制作風景